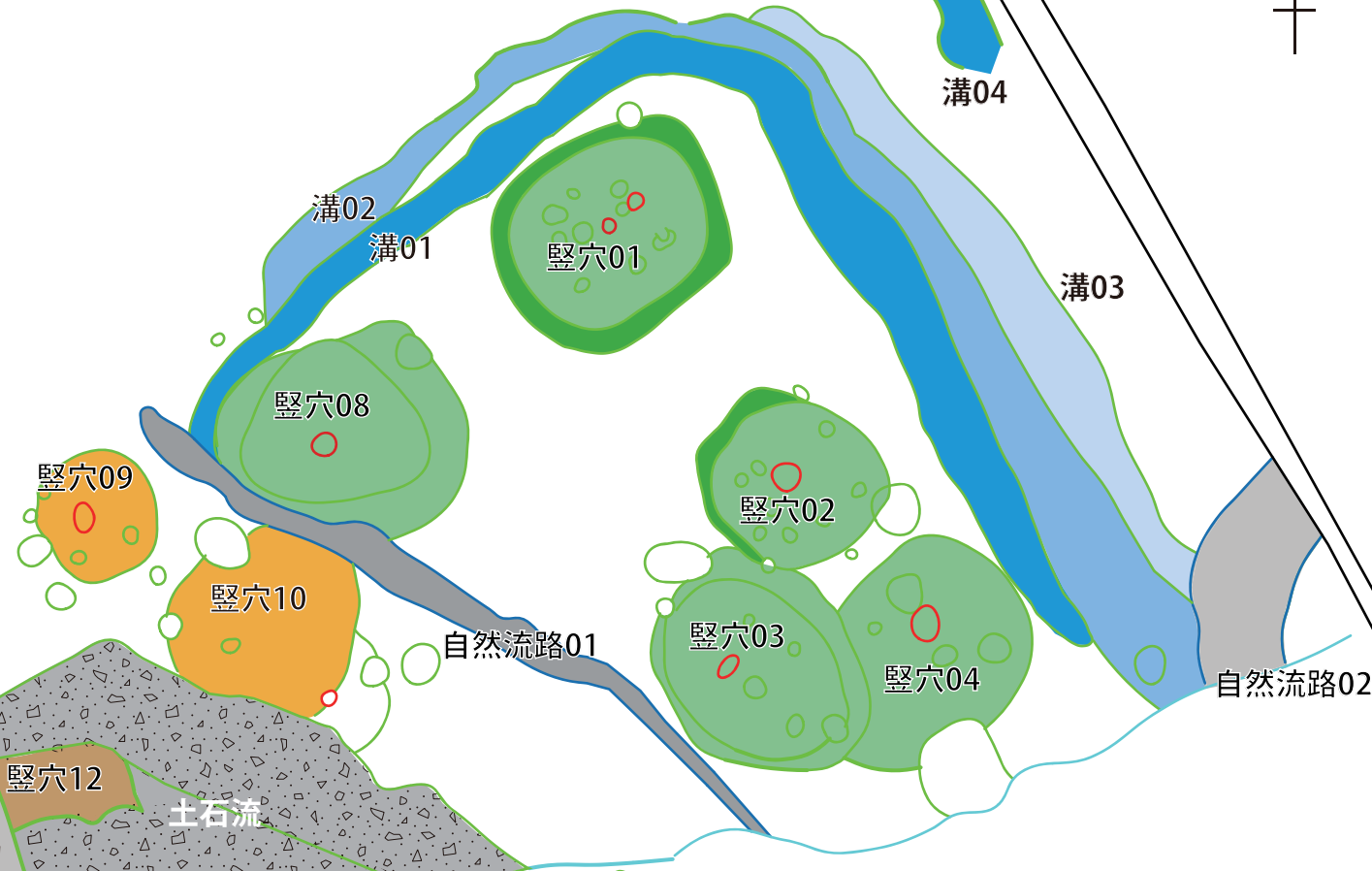


上ヲロウ・下ヲロウ遺跡20A区
弥生時代の集落跡全体図(1/200)



弥生時代中期後葉の集落跡は、上層に土石流が覆っていたため、残存状況が良好でした。そのため、周堤(土盛りによる堤)が残る竪穴建物跡(竪穴01と竪穴02 緑色の濃い部分が周堤)などが発見されました。

また、竪穴01と02は、建物の床面が2回以上更新されており、それぞれに伴う炉跡が確認されました。このことから、繰り返し同じ場所を利用して、住んでいたものと考えられます。

竪穴01の最新の床面から弥生土器の甕がまとまって出土しています。その中には、この地方の土器だけでなく、長野方面に類似した特徴の土器もあります。

集落の外側には、山側からの水を外に逃すための溝が掘られており、こちらもほぼ同じような位置に繰り返し掘られていました(色が濃い方が新しい)。



竪穴01 検出状況



竪穴01 弥生土器出土状況

0 10m

- 弥生時代中期後葉の区画溝
- 弥生時代中期後葉の竪穴建物跡
- 縄文時代晩期の竪穴建物跡
- 縄文時代中期の竪穴建物跡
- 炉跡

上ヲロウ・下ヲロウ遺跡 地元説明会

令和2年11月21日(土)



令和2年度 上ヲロウ・下ヲロウ遺跡 地元説明会資料

編集
配布



公益財団法人 愛知県教育・スポーツ振興財団
愛知県埋蔵文化財センター
HP <http://www.maibun.com>

調査支援 国際文化財株式会社

〒451-0045 愛知県名古屋市中区名駅2-27-8

〒498-0017 愛知県弥富市前ヶ須町野方802-24
電話 (0567) 67-4163 【調査課】

Twitter https://twitter.com/aichi_maibun
Facebook <https://www.facebook.com/maibunaiichi>

電話 (052) 414-6801

上ヲロウ・下ヲロウ遺跡20A区南側 下面の縄文時代遺構全体図(1/250)

遺跡の概要

上ヲロウ・下ヲロウ遺跡では、A区の北側で、江戸時代の柱穴列や縄文時代の遺物を含む遺物包含層、縄文時代中期前半の竪穴建物跡などが見つかっています。

また、南側では弥生時代中期後葉の集落跡(裏面で解説)が発見されました。

さらに、下層からは縄文時代中期後半から後期前半にかけての石囲炉を伴う竪穴建物跡、焼土(炉跡)を伴う竪穴建物跡、平たい石などを敷き詰めた土坑などが確認されています。

B区では、後世の造成によってほとんど遺構は残っていませんでしたが、石器が数点出土しています。

C区では、東側で戦国時代から江戸時代にかけての柱穴列や平安時代の竪穴建物跡などが発見されました。西側では縄文時代の遺物を含む谷地形が見つかりました。



焼けた石が集積された土坑



平たい石と縄文土器が敷き詰められた土坑



炉跡を伴う竪穴建物跡(縄文時代中期前半)



平たい石が敷き詰められた土坑



石囲炉



炉跡を伴う竪穴建物跡
(弥生時代?)

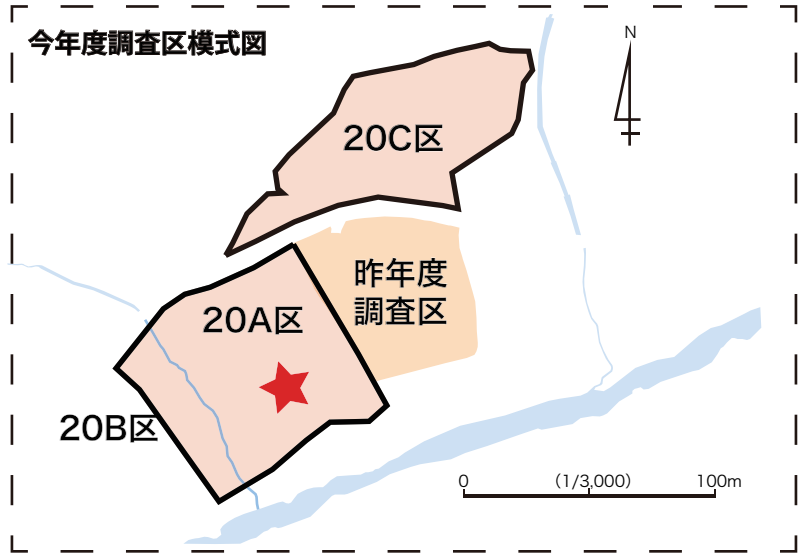


土器を埋設した土坑



石囲炉を伴う竪穴建物跡

今年度調査区模式図



凡例

- 集石土坑
- 土器埋設土坑
- 竪穴建物跡
- 石囲炉

土石流

本遺跡で取り扱う年代

先史時代

縄文時代中期前半(約5,000年前)

縄文時代中期後半(約4,500年前)

弥生時代中期後葉(約2,100年前)

歴史時代

平安時代(約1,000年前)

戦国時代(約400年前)

江戸時代(約300年前)